

地域おこし協力隊全国サミット 開催結果概要

資料3

主催:総務省

参加者:全国の地域おこし協力隊隊員、自治体関係者、一般の方

日時:平成27年3月8日(日)六本木ヒルズ



1. サミット会場 アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階) 12:30~16:45(開場11:30)

【プログラム】

○開会(オープニングムービー上映/高市総務大臣 挨拶)

○全国の地域おこし協力隊員によるPRタイム(サミット参加隊員全員がステージに登壇)

○特別講演「地域おこし協力隊へのメッセージ ~ Power of Communication」(クリエイティブディレクター 佐藤可士和氏)

○地域おこし協力隊トークセッション

〔 小田切徳美氏 (明治大学農学部教授)、峰竜太氏 (俳優/長野県下條村出身)
山形県朝日町 隊員OB、茨城県常陸太田市 隊員、長野県天龍村 隊員、香川県小豆島町 隊員OB、長崎県壱岐市 隊員 〕

○地域おこし協力隊活動報告

〔 会場A:兵庫県朝来市 隊員と職員 /長崎県対馬市 隊員OB/島根県海士町 隊員/コメンテーター 宮口侗迪氏(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)
会場B:佐賀県唐津市 隊員/広島県三次市 隊員OB/石川県津幡町・京都府京丹後市 田舎で働き隊隊員/コメンテーター 小田切徳美氏 〕

2. フェア会場 大屋根プラザ(六本木ヒルズ半屋内オープンスペース) 10:00~16:45

【内容】

○ステージ(隊員による活動報告、パフォーマンス等)

○PRブース(隊員が開発に携わった製品等の物産展や料理の試食・販売コーナー)

フェア参加自治体(28地域)
北海道名寄市・東川町、岩手県八幡平市、山形県朝日町・真室川町・川西町、茨城県常陸太田市・笠間市、埼玉県秩父市、新潟県十日町市、福井県小浜市、長野県天龍村・泰阜村・箕輪町、小谷村、滋賀県湖南市・東近江市、兵庫県朝来市、奈良県川上村、島根県邑南町・美郷町・海士町、岡山県瀬戸内市・美作市・真庭市、山口県阿武町、長崎県対馬市、熊本県和泉町



3. 結果

- ・来訪者約3,000名
- ・サミット参加者が700名程度、フェア来訪者は2,300名程度
- ・地域おこし協力隊隊員は全国から300名程度参加
- ・USTREAM配信視聴回数(平成27年3月16日現在) 1,610回
- ・FACEBOOKページ「いいね！」件数(平成27年3月16日現在) 2,772件

4. 総括

○開会挨拶

高市総務大臣が「26年度で隊員数が1,500名を超えそうな勢い。地域の方々とともに汗を流し、安心して安全に暮らせる。子ども達を連れて故郷に帰っても質の高い教育が受けられて働く場所がある。そんな地方が全国各地にたくさんできれば日本が変わる。そのきっかけをつくるのが協力隊です。」と地域おこし協力隊の今後の活躍に期待を寄せました。

○特別講演「地域おこし協力隊へのメッセージ ～ Power of Communication」

クリエイティブディレクターの佐藤可士和さんに「ブランディングとは、『本質的価値×戦略的イメージコントロール』。地域の一番いいところ(本質的価値)を把握するためには、外部人材としてのコミュニケーションスキルが重要。」とのお話をいただきました。また、「①人の話をちゃんと聞く問診力、②話の本意を読み取る理解力、③自分の考えを正確にまとめる整理力、④相手に分かりやすく伝える表現力。これらコミュニケーションスキルとして必要な“4つの力”を駆使して、それぞれの活動に励んでください。」とエールをいただきました。



○地域おこし協力隊トークセッション

MCをお願いした小田切先生には、東日本大震災を機に移住して現在は海女の後継者として活躍する長崎県壱岐市隊員や、外資系金融会社を退職し隊員として活動した後に地域の応援をミッションとする株式会社を立ち上げた香川県小豆島町隊員OBなど、バラエティ豊かな隊員や隊員OBのそれぞれの活動や地域に対する思いなどを、峰竜太さんとの楽しいトークを交えながら、引き出していただきました。特に、山形県朝日町隊員OBの佐藤恒平さんが隊員に対するアドバイスとして述べた「仲間と家族を大事にしてください。仲間とは地域の方たちのこと。家族とは



役場の担当職員さんのことです。仲間については、無理せず付き合えて、好きだと思える人と一緒に地域を盛り上げていくのが一番良いです。家族については、親は当然選べませんから、様々な親がいらっしやると思います。でも、金銭的な支援と変わらぬ見守りをしてくれる担当職員さんの存在は大事です。隊員、地域の人、役場の三角形をいかにデザインするかが大切です。」との言葉が、会場の共感を呼んでいました。

また、小田切先生は、「地域づくりは焦らず、力まず、諦めず」という言葉を引き合いに出され、「隊員のみなさんには、自分の考えや思いを持ちながらも、地域の方々とのコミュニケーション・信頼関係を大事にして、じっくりと腰を据えて取り組んでほしい。」というエールをいただきました。

○地域おこし協力隊活動報告

2会場にわかれて、それぞれ3組が地域づくりのヒントにあふれた活動実績報告また隊員OBとしてのアドバイスを発表しました。

コメンテーターをお願いした宮口先生には、「他人が地域に入ることによって風が生まれる。地域の内輪だけで相談しても行き詰まるものだが、ヨソモノ、ワカモノが入ると、皆が前を向いて動き出す。私は補助金ではなく、補助人だということを昔から申し上げてきたが、地域おこし協力隊はいわばその完成形ともいえる。」とコメントいただきました。また、隊員等の活動報告に対するコメントを通じて、自治体としての隊員受入体制の重要性や隊員が地域で生きていくために複数の仕事を掛け持つという考え方をご紹介いただきました。また、地域の方が外部人材と交流することで農山漁村の本来的価値を再確認できることや、外部人材が作り出した小さな経済が連鎖反応をおこして地域経済の循環につながることで集落が持続可能になりうること等について言及いただき、改めてサミット参加者全員で「地域おこし協力隊」の可能性を再確認しました。



○参加した隊員や自治体関係者の声

「全国的な事例を見て、把握していたつもりでも知らない現状がたくさんあり、勉強になりました。行政どうしが関わりをもって、全国の共通認識を高めていきたいです。早速持ち帰って、上司や県の中枢部と少しずつ相談していきたいです」(熊本県・自治体職員)

「さまざまな事例を聞くことができ、どの地域にも共通する部分として、地域にとけこむための近道や仕事の進め方のノウハウが学べました。ほかの隊員さんたちと話せて、仲間ができることもいいですね。近隣の県くらいには行けても、なかなか東京に来る機会はないので」(秋田県・協力隊員)

